

主要登場人物

本編オリジナルキャラクター

ミハエル・タウゼントシュタイン ★

(Michael Tausenstein)

帝国・ラストエンテ星系出身の中尉。物語開始時二二歳。軍人らしい堅苦しい雰囲気のある若者だが、やや長めにカットした柔らかい茶色の髪、頬から顎の繊細なラインが特徴の若者。一七歳で士官学校帝都首都校入学、二二歳で三位の成績で卒業後憲兵総監部付き将官の次席副官を務めるが、後にキルヒアイスの副官となる。ある事件でウジを助け、友人となる。

ウルシュラ・ザーネヘルシュテラー ★

(Ulssia Plätzchen Schaehersteller)

ケーキ職人見習いの少女。ミハエルと同じラストエンテ星系出身で、物語開始時一八歳。一五歳の時に帝都に出てきてケーキ職人修行中。本人はまだ自称四分の三人前だが、修行三年目で腕はかなりのもの。店のオーナーは、もつそろそろ一人前だと認めているらしい。緩いウェーブのある濃い金褐色の髪と、ほば青に近い大きな碧青の目。浅い小麦色に日焼けした肌に少しそばかすが目立つ愛称はウジ。ミハエルの友人。

ラインハルト・フォン・ローエングラム

(Reinhard Graf von Rohengramm)

豪華な金髪と蒼氷色の瞳を持つ貴公子。『銀河英雄伝説』の主人公の一人。戦争の天才。本編は、原作黎明編のころで、伯爵・上級大将から元帥までとなる。

でとなる。

ジークフリード・キルヒアイス

(Siegfried Kirchais)

ラインハルトの腹心であり親友。『ルビー』を溶かして染めたような赤毛と、感じのいい青い目の青年。カストロプ動乱で、ミハエルを副官に任用する。少将、アムリッツア会戦時には中将。ヴェスターラントの時ほどではないかも知れないし、原作でもさりとしか書いてないが、彼が『焦土作戦』の採用に抵抗を覚えなかったとは思えないという前提で、本編は書いています。

フリードリヒ四世

(Friedrich IV, Friedrich von Goldenbaum)

銀河帝国第三六代の皇帝。本編では名前だけ登場。

ウルリッヒ・ケスラー

(Ulrich Kessler)

本編時点では、帝都管区憲兵隊の大佐。原作外伝でも、グリーンメルスハウゼン子爵の個人的な知遇を得て、帝都に留まっているとの記述があったこの間、憲兵総監部でミハエルと知り合い。色々アドバイスする。

リヒテンフリーデ侯

(Klaus Fürst von Lichtenlade)

帝国国務尚書にして侯爵。フリードリヒ四世の側近。銀髪の、驚を思わせる険しい眼光の老人で、一〇年以上にもわたり国務尚書として閣僚首座を務めた、老巧な宮廷政治家。

マリア・アントニア・フォン・ローリングゲン ★

(Maria Antonia Josefa Joanna Gräfin von Lothringen)

ローリングゲン伯爵家当主。ラインハルトが幼年学校一年生の時の臨時数学教官で、ミハエルが士官学校一年の時も数学担当教官を務める。既に七〇歳を超えた、すでにすっかり銀髪に変わった金髪の、端正な老貴婦人。実はマリンドルフ伯爵家の血縁者であり、望まれてローリングゲン伯爵家を嗣ぐ。猫屋銀英伝の短編にたびたび登場願っている。

ヒルデガルト・フォン・マリンドルフ

(Hildegard von Mariendorf/Fräulein Mariendorf)

マリンドルフ伯爵家の一人娘。伯爵令嬢マリンドルフ。通称ヒルダ。短くした、くすんだ金色の髪とブルー・グリーンの生き生きした瞳の、美貌の少年を思わせる女性。

フランツ・フォン・マリンドルフ

(Franz Graf von Mariendorf)

マリンドルフ伯爵当主。ヒルダの父。カストロプ動乱に際して、説得に赴き、そのまま拘束される。カストロプ侯家とマリンドルフ伯家は縁戚ということだが、どういう縁戚だったのかは考察に値するかも知れない。(先代オイゲンや当代マクシミリアンの人物像が「……」な感じなので)。

ヨハン・タウゼントシュタイン ★

(Johan Tausenstein)

ラストエンテ星系の『独立派』リーダー。顎の張った、口の大きい、厳つい意志的な容貌。髪は白く、眉が太く左右がつながって、こめかみでもみあげに続いている。背が高く、がっしりした体軀は毎日の農作業で鍛え上げたもの。

リヒター・フェルト ★

(Richter Feid)

ラストエンテ星系の『独立派』領袖。長身で瘦身、綺麗になでつけた半白の顔に、かつては端正さを謳われた容貌が、現在は老いが柔らかさを削り落とし、険しい狷介さで表情を覆っている。常に極の太いステッキを手放さない。

ヘンリエッテ・ネーベンフラス ★

(Henriette Nebenfuss)

ラストエンテ星系の『独立派』領袖。星系最大の流通会社の旧オーナーの一族で、最大の出資者。一見『男性?』と思われる角張った、肉の厚い平板な顔立ちの六〇歳過ぎの初老の女性。

シュテファン・オストザイデ ★

(Stephan Ostseide)

ラストエンテ星系の『独立派』領袖。四家の当主の中では良識派とされる、白髪の小柄で痩せた老人。余り喜怒哀楽を表情に出さないが、シュタインウンタープレッヒヤーとも交流があり、現実路線としての宥和派に対する理解を示す。『独立派』の実質的な指導者。

ミハエル・シュタインウンタープレッヒヤー ★

(Michael Steinunterbruecher)

宥和派と呼ばれる。帝国に同化し、その中で一定の権利を獲得していこうとする一派のリーダー格。ウジー・ザーネヘルシュテラーの一家とは友だちづきあい。長身の、皺深い顔立ちの男性。ウジーが帝都へ出る時の後見役。

マルク・ザーネヘルシュテラー ★

(Mark Sahnhersteller)

ウジーの父。ラストエンテで小さな農場を営む。

ブリギッテ・ザーネヘルシュテラー ★

(Brigitte Sahnhersteller)

ウジーの母。

レオナルト・ザーネヘルシュテラー ★

(Leonard Sahnhersteller)

ウジーの三歳年下の弟。既にウジーより背が高くなり、ウジーに言わせると『中々にいい男』に育っている。愛称レオ。

テオドリヒ・ザーネヘルシュテラー ★

(Theodorich Sahnhersteller)

ウジーの六歳年下の弟。また悪戯盛りで色々ウジーをからかすが、実は姉さん子。愛称テオ。

ブランドミューラー ★

(Brandmüller)

ケーキ職人。ウジーの師匠。ウジーに目をかけている。

ハンス・シュテルツァー

(Hans Sterzer)

マリンドルフ伯爵家の家令。

ハンス・エドウアルト・ベルゲングリュン

(Hans Eduard Bergengrün)

キルヒアイスの参謀長。緑の目、鋭角的に引き締まった顔立ちの軍人。豊かな顎髭の所有者と伝えられる(OAVやコミックではそうなっていますが……原作には顎髭の有無はなかったような気がします)。大佐。アムリッツァ会戦時少将。

マクシミリアン・フォン・カストロフ

(Maximilian von Kastroff)

前財務尚書カストロフ公爵オイゲンの息子。父オイゲンの蓄財に対する帝国政府の施策に反発し、マリンドルフ伯を人質に取り、伯爵領を併呑して半独立国家の樹立を目指した動乱を起こす。キルヒアイスによって討伐される。OAVでは、ローマ・ギリシア風の寛衣(トイガ)をまとった変なおっさんでしたが、本編では原作に従って自ら立つて前線の指揮を執っていたことにしました。